

平成29年秋の叙勲・褒章

種子田與市さんと手話サークル木の实会が受章

11月1日、秋の叙勲・褒章が発表され、市からは元民生員・児童委員の種子田與市さんが瑞宝双光章、小林手話サークル木の实会（岡原直美会長）が緑綬褒章を受賞しました。

種子田さんは、42年間、同委員として活動し、市の会長を18年間、県の会長を6年間努めるなど尽力。「多くの方々の協力があったからだけだ。これからも市民の福祉向上に貢献できれば」と話していました。

木の实会は、38年間、難聴者との交流など、手話を通じた福祉活動に尽力。岡原会長は「設立当初からの先輩や現在の会員の皆さんが地道に活動してくれたおかげ」と喜びを語りました。



④ 11月20日に木の实会主催で開催したもので、交流での集合写真
⑤ 種子田さんは、社会福祉協議会の会長も務めています



取り組みを紹介します

きずな協働体 今月は、南校区

南校区まちづくり協議会が設立

10月21日（土曜）、きずな協働体「南校区まちづくり協議会」が設立されました。私たちの住む南小学校区は、市中心部の南西部に位置し、商店街、住宅地や公共施設など豊かな自然と都市機能が融合した資源豊かな地域です。この素晴らしい地域をさらに磨きあげ、魅力を高めていくために地域に関わる一人一人が

「できること」を「できるとき」に「できるところ」から行動し、誰もが「住んでみたい・住んでよかった」と思える南校区を目指してまいります。これからの活動に注目ください。

1月13日（土曜）には、おねっこ祭りを南地区体育館横の田んぼで開催します。皆様の参加をお待ちしております。



南校区まちづくり協議会
吉村秀昭会長
吉村太成くん

おねっこ祭りにぜひ参加ください！みんなで南校区を盛り上げましょう！

文化の秋を堪能 芸術の祭典総合文化祭を開催

11月3日から5日にかけて、市総合文化祭が文化会館、中央公民館、市民体育館、野尻町農村環境改善センターや百歳会館などで開催されました。作品展、芸能祭、囲碁・将棋大会、短歌会やお茶会などを実施。参加者は、展示やステージなどで日ごろの活動の成果を披露しました。



中央公民館に展示された作品を見る来場者。開催期間中、約6000人が各会場を訪れ、文化の秋を堪能しました



5m以上の高さで演技をする小川さん。技が決まるたびに会場からは、盛大な拍手と歓声が送られていました

空中での華麗な演技に拍手喝采 全日本トランポリン選手権開催

10月21日、第54回全日本トランポリン選手権大会が市民体育館で開催されました。全国各地から個人130人、団体32組の精鋭が集結し、日本最高峰の技術を見ようと1200人が来場。市からも、T.C Ultimateの小川結生さんが出場し、結果は21位で予選通過、24位でセミファイナル敗退でした。

美しい食への変化と地方回帰 「美食」の最前線を学ぶ

11月16日、食と農の魅力創生講演会がKITTO小林で開かれました。「美食ガストロノミーの最前線」と題し、辻調理師専門学校企画部長の尾藤環さんが講演。国際的潮流として、健康や資源への配慮など、持続可能な社会形成へと向かっている美食事情について話しました。



講師を囲んでのトークセッション。梶並農園の梶並達明さんや食と農の魅力創生シェフ地井潤さんとのトークが展開されました



ネパールでのニジマス養殖の苦労や現状を説明するグルング氏。「宮崎・小林にとっても感じている」と話していました

ニジマスが繋いだ架け橋 宮崎・ネパール親善交流

11月15日、宮崎・ネパール親善交流事業が出の山いこいの家で開催されました。30年前に小林市で学んだ養殖技術を母国に広めたテック・パハドゥル・グルングさんを国際交流支援の会（田爪泉会長）を含む同実行委員会が招へい。講演会や交流会を通して親善交流を深めました。



須木内山地区
やまびこの里実行委員会 会長
うえはら まさる
上原 勝さん (72)

小林看護医療専門学校で誓いの式

10月27日、小林看護医療専門学校で「誓いの式」が開催されました。式を迎えたのは、看護学科、医療秘書学科の1年生38人。学生らは、誓いのことばとして、医療職を志すものとしての誇りと自覚を宣誓。保護者や来賓の前で、その決意を新たにしました。



シルバー人材センターが奉仕作業

10月21日、市シルバー人材センターは、奉仕作業を行いました。この取り組みは、全国シルバー人材センター普及啓発月間の一環。会員ら281人が参加し、21班に分かれて市内各地のごみ拾いや草刈りなどを行いました。



准看護学校で第59回戴帽式

11月2日、西諸医師会立小林准看護学校の第59回戴帽式が同校で行われました。晴れて戴帽した1年生15人は、ナイチンゲール像から看護の精神を表す灯りを受け取り、自らが進む看護の道への志を立てました。



各種証明書のコンビニ交付始まる

11月1日、証明書コンビニ交付サービスが始まりました。同日、ファミリーマート小林つつみ店で式典を開催し、関係者ら30人が出席。今後、マイナンバーカードを利用して、住民票の写しや印鑑登録証明書などがコンビニのキオスク端末で取得できます。



健康づくりを各団体で情報共有

11月8日、市内で健康づくりを目的として活動する団体の集まりである「地域を元気にしよう会（第3回）」を中央公民館で開催しました。81人が参加し、それぞれの日ごろの健康づくりの活動について情報や思いを共有し、理解を深めました。



全国トップレベルの演技を披露

11月11日、新体操演技会が開催されました。全国レベルの演技を生で見ようと約2000人が来場。選手たちの息のあった団体演技、ロープやスティックを使った個人演技が披露され、技が決まるたび会場からは、拍手と歓声が送られました。



坂口建設(株)と(株)三共がランドセル寄贈

11月10日、坂口建設(株)と(株)三共は、市にランドセルを4個寄贈しました。坂口建設(株)代表取締役の松岡重孝さんは「子育て支援の一助になれば」と思い寄贈しました。子どもたちが喜んでくれればうれしい」と話していました。



きつとKITTO 小林が公共建築賞を受賞

小林駅隣のKITTO 小林が外壁材メーカーのニチハ(株)(愛知県)が主催する写真コンテストで、公共建築賞を受賞しました。小林駅舎との調和や大きなフレーム形態などが評価。11月15日、同社吉田康則取締役が来市し、受賞を報告しました。



自然豊かな内山を知ってもらい 一緒に地区を盛り上げる 仲間を増やしていきたい。

須木内山地区の地域おこしに取り組む「やまびこの里実行委員会」。会長を務めるのは、上原勝さん、72歳。内山地区は、平成25年の小学校の閉校とともに、子どもの姿を目にすることが少なくなっている。「小学校が閉校し、子どもの声が聞こえなくなり、地域が寂しくなった。昔は、祭りや相撲大会などイベントもたくさんあって、活気があったのに...」。

まずは、市内の子どもたちを招き、休耕田で田植えと稲刈り体験を行った。「子どもたちの声を聞く」と元気をもらえる。人は少なくなっても、こうやって活気を作るための取り組みは続けていかなければならないと感じた。

しかし、イベントは一時的に地域が活気づくもの。根本的な課題解決にはならない。「まずは、内山を多くの人に認識してもらわなければ地区の未来はない」と考えた上原さんは、28年にはサツマイモの農業体験を実施。世代間交流を通して



④ 11月20日、今年もサツマイモの収穫体験を実施。30人の子どもたちが参加した。⑤ 実行委員会と須木酒造が共同で開発・販売した本格焼酎「内山」。7月に1000本限定発売され、わずか1ヶ月で完売となった。